

タイピングの、その先へ

ローマ字入力のに選ぶ、新しい打鍵の世界

A O U R

ローマ字入力は、スタート地点。

日本のキーボード利用者の9割以上がローマ字入力を使用しています。誰もが習得しており、十分に機能的です。

しかし、その効率性には限界があります。
ソース資料の冒頭には、核心を突く一文があります。
「ローマ字入力は、和文入力において最善の方法ではない」

もし、あなたが「もっと速く、快適に入力できる方法があるのでは？」と感じたことがあるなら、その直感正しいのです。

90%+
ローマ字入力

「新配列」がもたらす、圧倒的な効率化。

「新配列」とは、より少ない打鍵数、指の移動距離の削減、そして快適性の向上を目的として設計された、新しい日本語入力方式の総称です。

その効果は明確な数字に表れます。

これは、タイピングにおける疲労を軽減し、生産性を長期的に向上させる可能性を秘めています。

AOURでは、ローマ字入力比で

約**18%**
の打鍵数削減

(出典：筆者の単純調査による)

AOUR：快適な和文入力のために生まれた新配列

AOURは、Dvorak配列を土台にした行段系の入力方式です。
その設計思想は、以下の4つの特徴に集約されます。

1 高頻度の母音を左手ホームポジションに集約

最もよく使う音を、
最も打ちやすい場所に。



2 拡張入力による打鍵数削減

二重母音や撥音節などを効率的に入力する体系的なルール。



3 Dvorak配列が土台

合理的な指の動きを実現する
配列を基礎としています。



4 普段のIMEで利用可能

ATOKやGoogle日本語入力の
「ローマ字カスタマイズ」機能で実現。
特別なハードウェアは不要です。



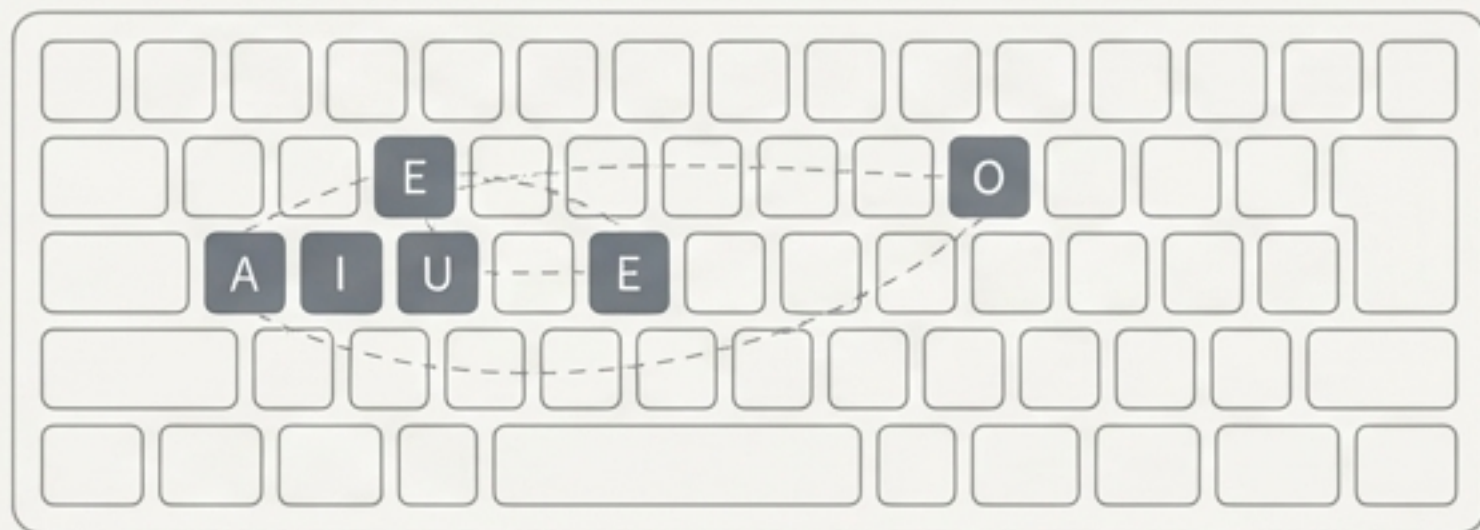
ATOK / Google日本語入力

すべての基本、母音がホームポジションに。

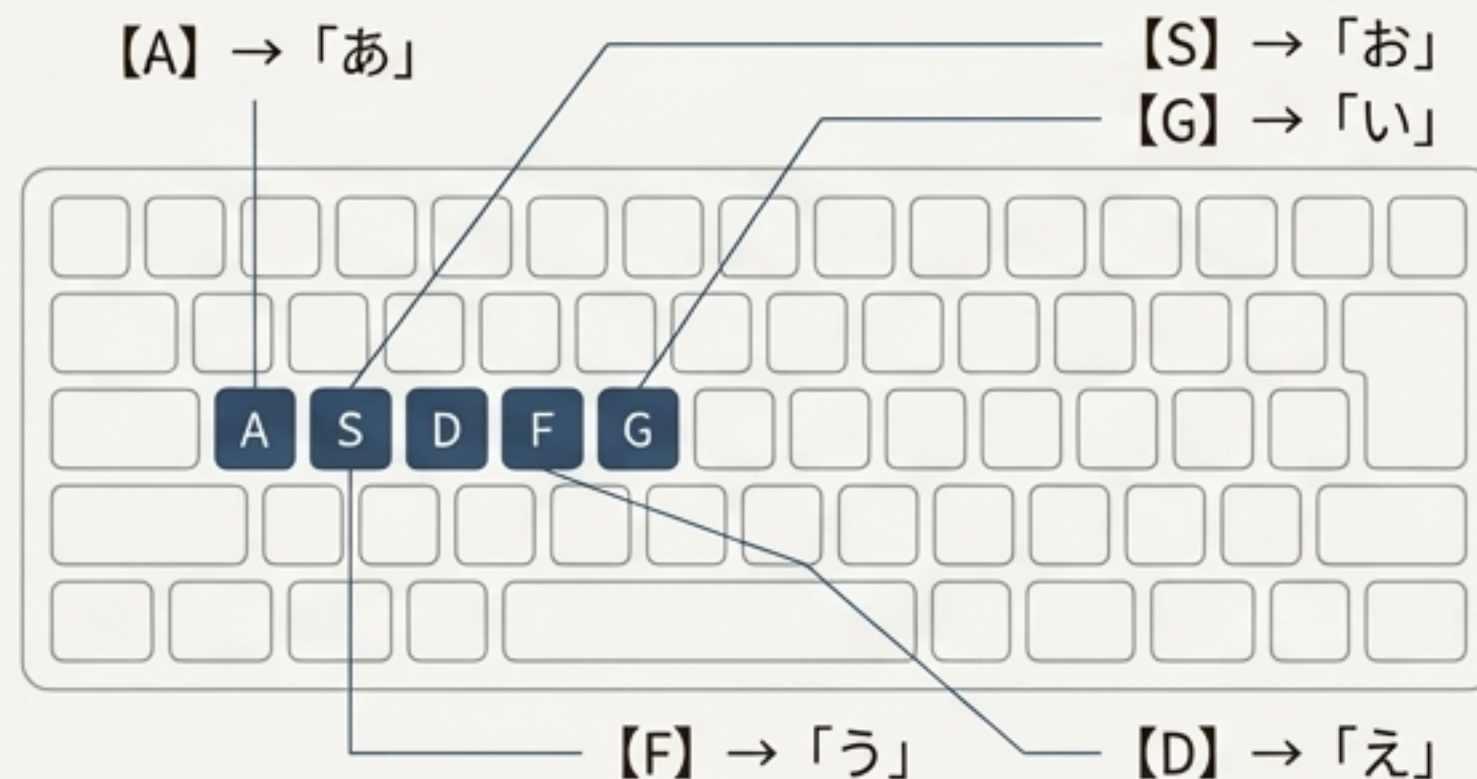
AOURの最大の特徴は、母音の配置にあります。

使用頻度の高い5つの母音が、すべて左手のホームポジションに集約されています。

ローマ字入力之母音



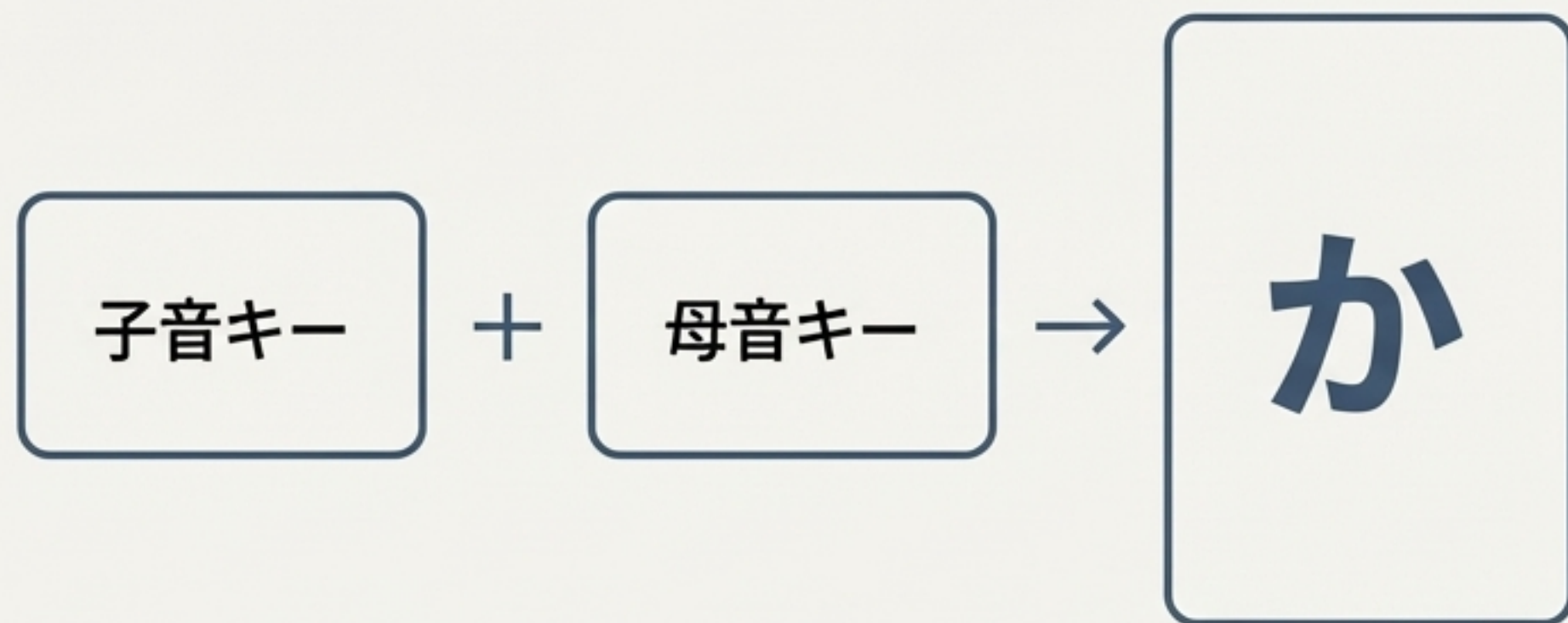
AOUR之母音



指の移動を最小限に抑え、思考のスピードを妨げません。

入力の基本ロジックは、ローマ字入力と同じ。

基本的な文字入力は、慣れ親しんだ「子音キー＋母音キー」の組み合わせです。
AOURは全くの別世界ではなく、ローマ字入力の進化形と捉えることができます。



「か」 = **【I】** (カ行子音) + **【A】** (母音「あ」)

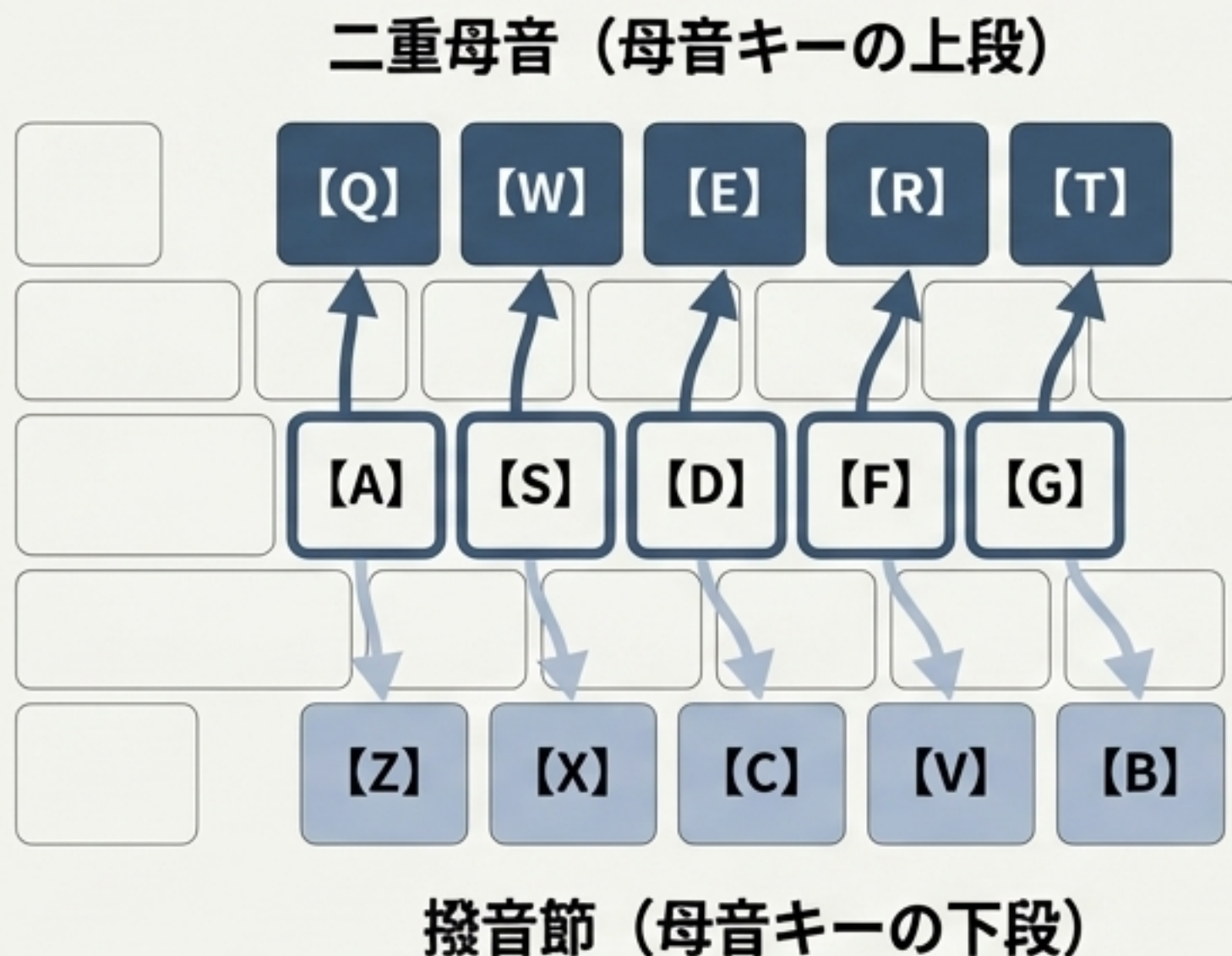
「し」 = **【;】** (サ行子音) + **【G】** (母音「い」)

「ぬ」 = **【L】** (ナ行子音) + **【F】** (母音「う」)

「ほ」 = **【J】** (ハ行子音) + **【S】** (母音「お」)

効率を飛躍させる拡張入力①：二重母音と撥音節

AOURは、日本語に頻出する音のパターンを、体系的なルールで効率的に入力できます。
母音キーを基準に、上段と下段に機能が割り当てられています。



例：「こう」= 【I】（力行）+ 【W】（「オウ」の二重母音）
「かい」= 【I】（力行）+ 【Q】（「アイ」の二重母音）

例：「こん」= 【I】（力行）+ 【X】（「オン」の撥音節）
「かん」= 【I】（力行）+ 【Z】（「アン」の撥音節）

これにより、「kou」（3打）→ 【IW】（2打）
のように、多くの場面で打鍵数が削減されます。

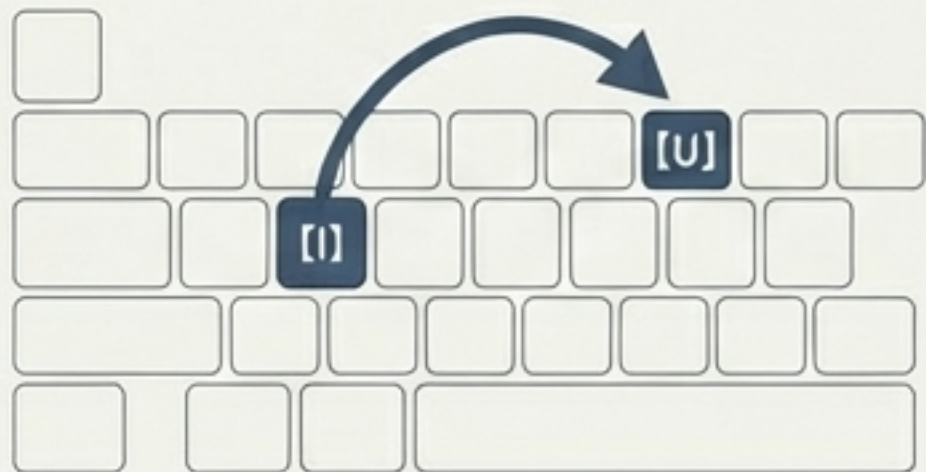
効率を飛躍させる拡張入力②：拗音と「裏打ち」

更なる効率化のため、より複雑な音の組み合わせにもショートカットが用意されています。

拗音（「きゃ」「しゅ」など）

ルール：子音キーと同段の右手人差し指キー【U】
【J】 【M】 を拗音キーとして使用します。

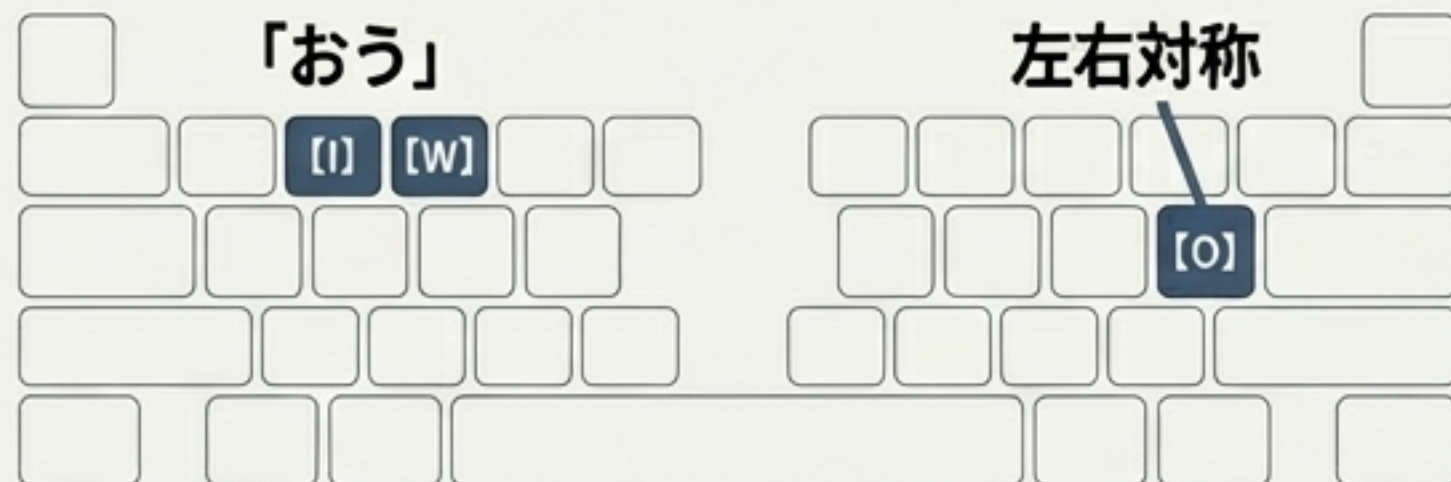
例外：シャ行【B】，チャ行【V】、ジャ行【C】 には
専用の子音キーがあり、2打鍵で入力できます。
(例：「ちょ」=【VS】)



裏打ち（頻出パターンのショートカット）

ACT配列から着想を得た、本則より入力しやすい方法
です。

「きょう」：本則【IUW】（3打）→ 裏打ち【IO】（2打）
「ひゃく」：本則【JJAIF】（5打）→ 裏打ち【J;】（2打）



これらは単なる暗記ではなく、指が自然に覚える合理的なショートカットです。

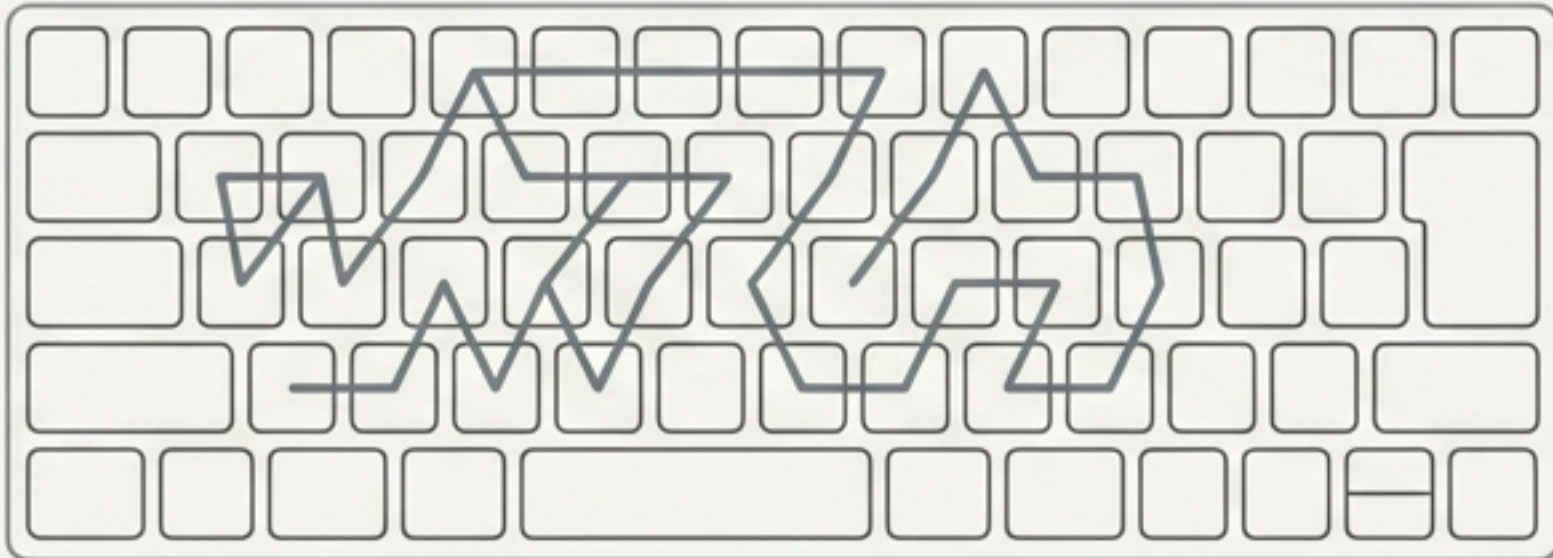
AOURの実力：打鍵の比較

同じ文章を入力した際の、ローマ字入力とAOURの打鍵シーケンスを比較してみましょう。

「きょうのてんきははれです」

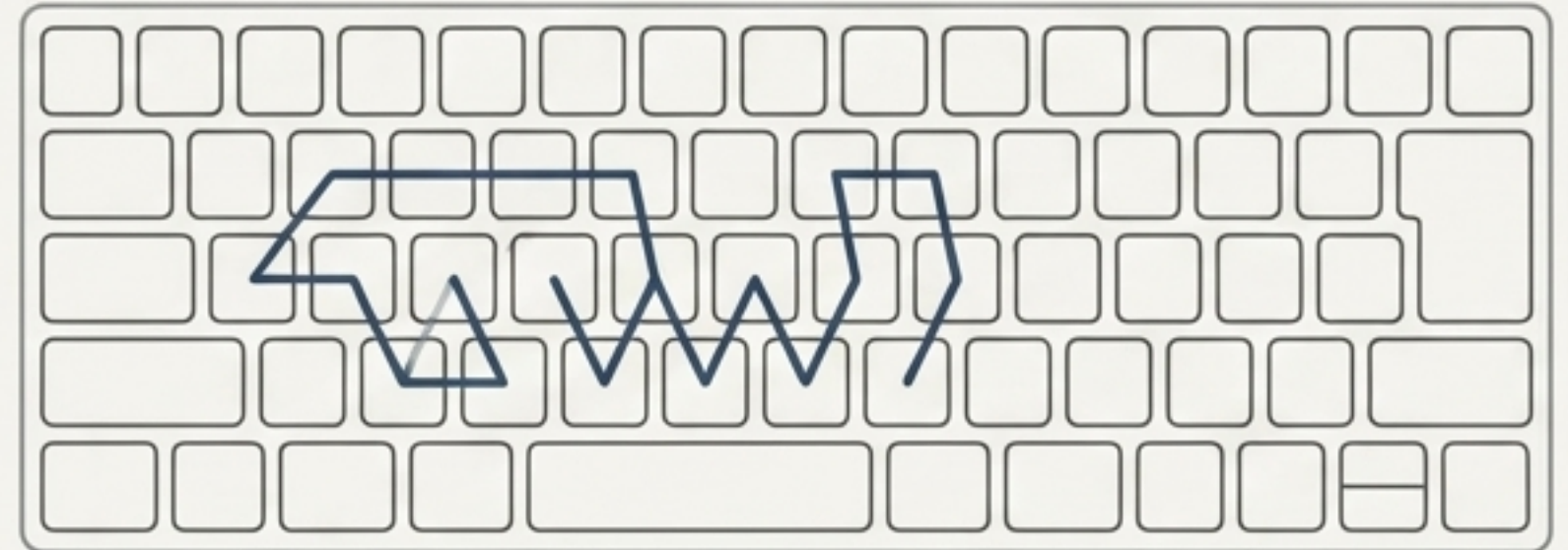
ローマ字入力（23打鍵）

`k y o u n o t e n k i h a h a r e d e s u`



AOUR（14打鍵）

`i o l s k c g j a j a o d h ;`



打鍵数が約39%削減され、指の動きもよりスムーズになっていることがわかります。

実用性を追求した、 AOURの完成されたエコ システム

AOURは、日常的な日本語入力で遭遇する様々なシーンに対応する、包括的なシステムです。

外来語特殊音

「ファ行【Y】」「ヴァ行【Q】」や、「ティ【KPG】」「ウィ【WPG】」なども体系的に入力可能。

促音+カ・サ・タ・パ行

「っか【PZ】」「った【PQ】」「っさ【Q;】」など、頻出する促音パターンを2打鍵で入力。

アク/アツ音節入力

「さく【;I】」「かつ【IH】」など、「ア段+く/つ」のパターンを子音の組み合わせで入力。

特定定義

「こと【IK】」「です【H;】」「ます【M;】」など、頻出語をショートカットで入力するオプションも用意。
(※これらは「おまけ」として無視しても問題ありません)

理論上の効率だけでなく、現実の文章入力におけるあらゆる側面を考慮して設計されています。

AOURを始めるための環境設定

AOURは、特別なキーボードやOSを必要としません。
普段お使いの環境に、定義ファイルを追加するだけで始められます。

ATOK



スタイルファイルのローマ字定義部分を置き換えて実装。複数のスタイルを切り替えて利用可能。

Google日本語入力



提供されている定義ファイルを読み込ませるだけで設定完了。入力中の状態表示も可能で、習得時に便利です。

DvorakJ / 姫踊子草

MS-IMEなど、IME自体にカスタマイズ機能がない場合でも、これらの常駐ソフトを介してAOURを利用できます。



キーボード: 一般的なQWERTY配列キーボード (JIS/US両対応)



OS: Windows, Macなど、上記アプリケーションが動作する主要なOS

習得への道のり：現実的な期待値

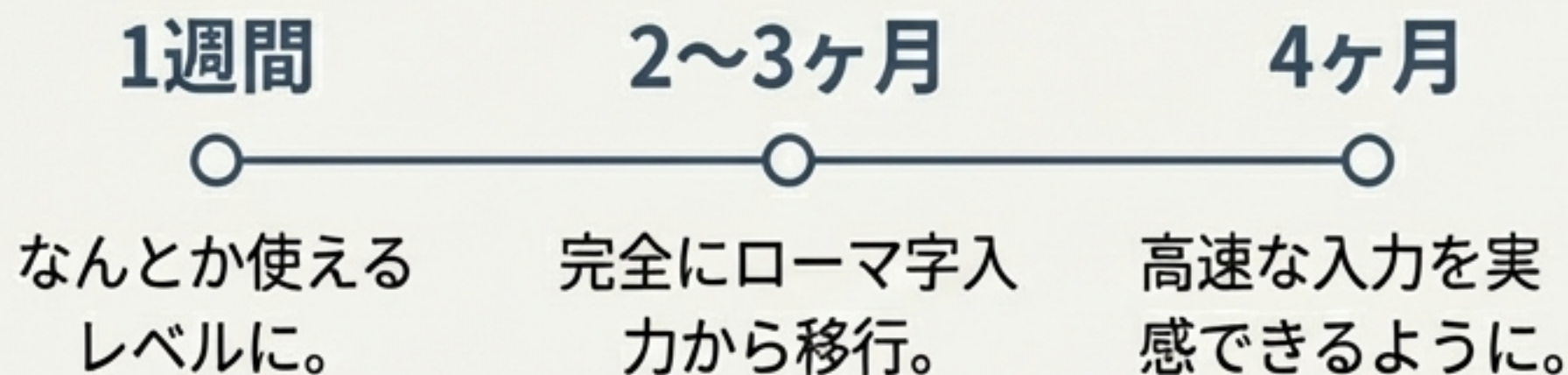
新しい入力方式への移行には、一時的な学習コストが伴います。
AOURも例外ではありません。

知っておくべき弊害

混同：習得の初期段階では、ローマ字入力(QWERTY)との混同が起こります。特に英数入力モードとの切り替え時に混乱しやすいです。

一時的な速度低下：慣れるまでは、当然ながら入力速度は一時的に低下します。

習得期間の目安（考案者の実例）



短期的な投資で、長期にわたる快適さと効率性を手に入れることができます。

習得への最初のステップ

AOURの学習は、キーの位置と指の動きで覚えることが重要です。以下のステップで、少しずつ身体に覚えさせていきましょう。

(「第三章 AOUR打鍵練習帳」より)

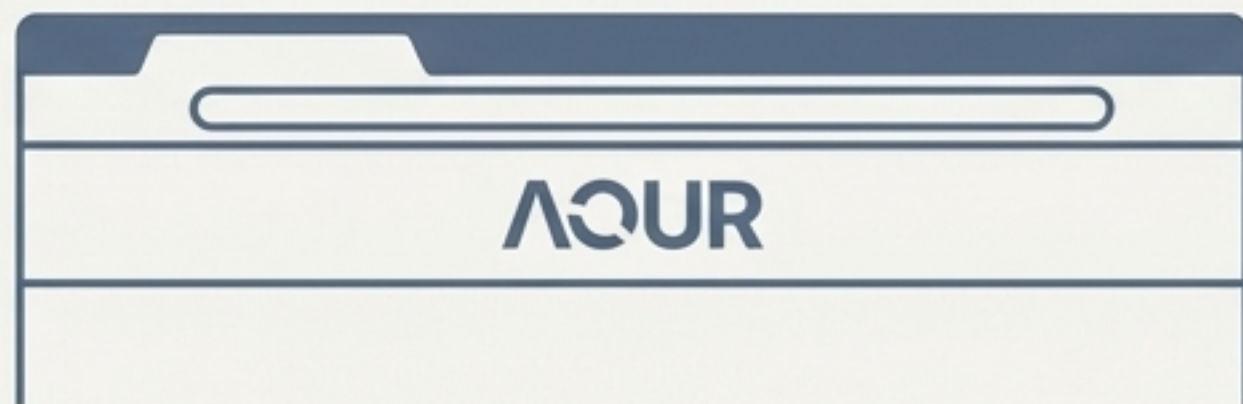
1	Step 1: 左手中段（母音）をマスターする まずは【A】 【S】 【D】 【F】 【G】 の母音だけを練習します。「あいうえお、小指ヒトヒト中クスリ」と覚えましょう。
2	Step 2: 右手中段（子音）と組み合わせる 八行【J】、タ行【K】 など、ホームポジションの子音と母音を組み合わせて、簡単な単語を打ちます。 (例：ひと【JGKS】、はた【JAKA】)
3	Step 3: 上下段へと拡張し、練習を重ねる 徐々に使用するキーを増やし、練習帳の用例を打ちながら、指の担当範囲を広げていきます。



最初のうちは、練習が終わったら元のローマ字入力に戻しても構いません。毎日少しずつ触れることが大切です。

さらなる情報とリソース

AOURの公式Webサイトでは、最新の定義ファイル、詳細なドキュメント、そして考案者の知見や更新履歴など、習得と活用に役立つすべての情報が公開されています。



<http://aourkbd.net/>

- ✓ ATOK, Google日本語入力, DvorakJ用の最新定義ファイル
- ✓ 完全な定義一覧表と盤面図
- ✓ 考案経緯や打鍵数比較などの詳細コンテンツ

**AOURがもたらす快適さとスピードは、
ゴールではなく、あなたの未来の創造性を支える、
新しい礎となる。**

AOUR

<http://aourkbd.net/>